



What IS IT?

ISIT: Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

編集 事業支援部

INDEX

今号の主な内容

- ISITが新しく変わりました P1
- 第2回 ふくおかAI・IoT祭り in SRPを開催 P2
- SRP Open Innovation Labオープン記念イベントを開催 P3
- BODIK事業紹介 P4
- 「明星和楽2018」eスポーツイベントを開催 P4
- Joint-IFF提案力・開発力育成プログラム報告会を開催 P5
- 第1回洗浄技術セミナー・出張よろず相談会を開催 P6
- 有機EL参入支援セミナーを開催 P6
- 九州大学高等研究院及び京都高度技術研究所との研究交流会 P7
- 第8回ちいむ百の糸セミナーを開催 P7
- 福岡経済同友会 理化学研究所の取組みを紹介 P7
- ISITからのご報告 P8
- 賛助会員〈法人・個人〉のご紹介 P8
- 賛助会員募集 P8

ISITが新しく変わりました

平成30年4月1日

ISIT（九州先端科学技術研究所）では、新海征治研究所長の退任に伴い、新たに山田淳氏（元九州大学大学院工学研究院教授）が研究所長に就任いたしました。

ISITは、これまでの研究開発中心から社会、産業界への応用・橋渡しを重視した体制への転換を目的として、昨年4月に、IT関連3研究室〔システムアーキテクチャ研究室、情報セキュリティ研究室、生活支援情報技術研究室〕を統合し、オープンイノベーション・ラボ（Open Innovation Lab：略称OIL）を開設したところですが、さらなる見直しを進め、この4月からナノテク研究室と有機光デバイス研究室を統合し、新たにマテリアルズ・オープン・ラボ（Materials Open Lab：略称MOL）を開設しました。

今後とも、これまで培ったテクノロジーや九州における大学等の学術研究機関のシーズを活かし、産学官連携の下で、研究開発、社会実装、社会実証を推進してまいります。



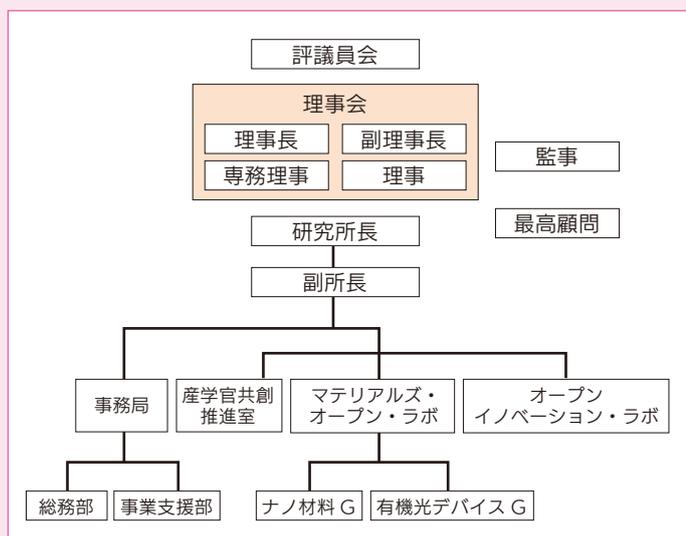
マテリアルズ・オープン・ラボ〔MOL〕

▼ナノ材料グループ

研究グループ長 山田 淳
プラズモンナノ材料の開発と光機能素子の創製に向けた基盤技術の開発

▼有機光デバイスグループ

研究グループ長 八尋 正幸
次世代有機半導体光デバイスの創製に向けた革新的な共通基盤技術の開発



3月2日（金）、3日（土）の2日間、福岡SRPセンタービルにおいて「第2回 ふくおかAI・IoT祭り in SRP」を開催しました。

第2回となる今回は、ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州（BODIK）と福岡市IoTコンソーシアム（FITCO）に加えて、Fukuoka AI Communityの共同主催により、福岡SRPセンタービル2階を貸し切って開催しました。

今回のメインテーマはAI。当日はAIセミナーやLoRaWANの実証報告、IoTワークショップなど多彩なメニューで開催し、BODIK、FITCO、Fukuoka AI Communityの会員企業による展示ブース（14社出展）も行い、2日間合計で延べ510名の方に参加いただきました。



出展ブースの様子

<展示ブース出展企業のみなさま>

- ・平井正昭研究所
- ・PTCジャパン
- ・九電テクノシステムズ株式会社
- ・アジアクエスト株式会社
- ・一般社団法人 組込みシステム技術協会
- ・株式会社コア九州カンパニー
- ・福岡県警察サイバー犯罪対策課
- ・株式会社パソナテック
- ・株式会社ニッセイコム
- ・コネクシオ株式会社
- ・株式会社豆蔵
- ・株式会社ロジックリサーチ
- ・株式会社ネットワーク応用技術研究所
- ・NPO法人QUEST

初日、メイン会場のSRPホールでは、AIセミナーを開催しました。

福岡市のAIベンチャーである株式会社チームAIBODや株式会社スカイディスク、株式会社グローヴノーツの他、日本アイ・ビー・エム株式会社、日本マイクロソフト株式会社、アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社、グーグル合同会社など大手クラウドベンダーの発表もあり、今回のイベントで一番人気のあるセッションとなりました。他にも福岡市で実施中のLoRaWAN実証事業の報告会もあり、LPWA実証の結果報告に注目が集まり多くの人が参加していました。

またこの日、福岡SRPセンタービル1階に、ショールーム、テストベッド、交流スペースの機能をもったSRP Open Innovation Labがオープンし、IoTやAR/VRのミニワークショップを開催しました。

2日目は、体験型のワークショップを中心に開催しました。

AIのワークショップは、ディープラーニングや機械学習をPC持ち込みで体験できるコースを複数用意し人気を集めていました。また、子ども連れでも参加できるイベントも同時に開催し、プログラミング教室や、電子工作など多彩なメニューを用意し、子ども達の笑顔も多く見られ、満足度の高いプログラムが多数揃っていました。



AIセミナー会場



LoRaWAN実証事業の報告会



アイデアスケッチワークショップの様子



AI・IoT関連の製品や取組みを紹介

本イベントは、昨年からはじめてまだ2回目ですが、毎年恒例のイベントとなるように育てていきたいと考えています。次回も是非ご参加ください！

■3月2日（金）にオープン

SRP Open Innovation Labは、公益財団法人九州先端科学技術研究所（ISIT）が主体となり、株式会社福岡ソフトリサーチパーク、NPO法人 QUEST、ITベンダー各社と連携しながら以下を目的に運営しています。



ショールーム

- AIソリューション展示
- AI活用にかかる相談窓口
- IoTセンシング事例展示
- AR、VR体験
- オープンデータ活用事例紹介

人材育成・交流

- 技術者向けセミナー、イベントの開催
- 地域技術者交流
- 各種コミュニティとの連携

実証実験

- IoTデバイス活用実験
- LPWA通信規格の検証（LoRaWAN規格）
- センシング結果の可視化バリエーション研究

■人材育成にむけたイベント・セミナーの開催

オープニング記念として開催したISIT主催セミナー4本に加え、企業様にご協力頂いてAI・IoTに関する技術セミナーを開催しました。



Neural Network Console (AI)

- Deep Learningの基礎的概念の説明
- ツールによるAI適用事例の紹介



CANDY PI (IoT)

- センサーと通信モジュールの接続～疎通一連の流れを体験

いずれのセッションも参加頂いた皆様から高い評価を頂きました。

今後も皆様知りたい、触れたい知識・技術に関して、セミナー・イベント等を通じてご紹介していきますので、取り上げてほしいテーマ、興味のあるテーマがございましたら是非ご相談ください。

■人材交流促進に向けた、シビックテック活動（Code for Fukuoka）支援

地域の技術者コミュニティを支援する目的で、SRP Open Innovation LabをCode for Fukuokaの活動拠点として開放しています。3月3日（土）には「子育てをもっと楽しめるアイデアを考えよう!」をテーマにアイデアを温めました。

引き続きSRP Open Innovation Labをベース基地に、このテーマに沿った具体的な課題解決に向けた取組みを進行する計画です。



ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州 BODIK事業紹介



BODIKオープンデータセンター

<http://www.bodik.jp/opendatacenter/>

「オープンデータ事業を通じて、産学官の垣根を越えたデータの利活用を促進し、九州全域のスマート化に貢献する」ことを目的として、2017年10月に「オープンデータセンター」を開設し、以下の4種類のサービスを提供しています。

I オープンデータカタログサイト

オープンデータを公開するカタログサイトで、自治体は無料で利用できます。

II オープンデータモニター

全自治体のオープンデータを集めて再分類したワンストップポータルです。

III オープンデータユニファイドAPI

標準化された複数の自治体のオープンデータを簡単に検索することができます。

IV セミナー・研修

オープンデータの意義を理解する啓発セミナーや、データの公開と活用方法の習得を目的とした実践研修を開催しています。

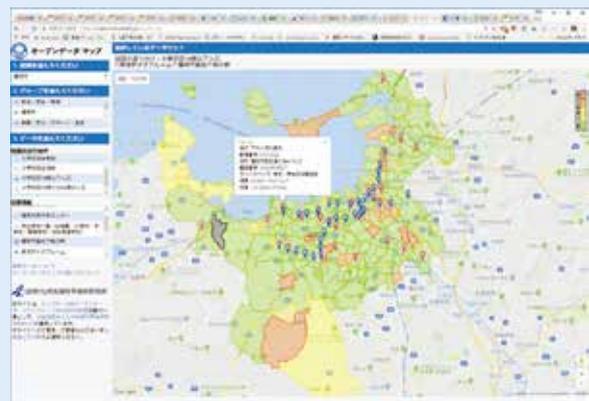


福岡市オープンデータマップ

<https://mapfukuoka.bodik.jp/fukuoka-city>

オープンデータの活用事例として、オープンデータを分かりやすく地図上に表示するオープンデータマップというサービスを提供しています。本サービスは、地図上に特定の領域で塗り分け、位置情報を持ったAEDや避難所などのオープンデータをユーザーが選択して表示することが出来ます。

福岡市版のオープンデータマップでは、小学校区別の人口や生徒数、世帯数などで領域を塗り分け、福岡市が公開しているオープンデータで位置情報を持っているものを選択して、ピンを立てる事が可能です。例えば14歳以下人口と小学校区別の領域の塗り分け、地下鉄の駅と病児デイケアルームの位置情報など、複数のデータを一つのマップに同時に表示することができ、新たな発見につながります。



テクノロジーとクリエイティブの祭典「明星和楽2018」 eスポーツイベントを開催

平成30年3月31日

テクノロジーとクリエイティブに関わる人々が集まるイベント「明星和楽2018」(会場：Fukuoka Growth Next)において、公式プロ選手を迎えてeスポーツのエキシビジョンマッチやトークショー等を開催し、250名を超える方の参加をいただきました。当日は、格闘ゲーム「鉄拳7」公式プロ選手同士による白熱した対戦を観戦したのち、eスポーツの現状や今後について活発な議論がなされました。また、高島福岡



AR/VR/AI技術の体験

市長が飛び入りで参加され、eスポーツを体験されるなど、終始、会場は大いに盛り上がりを見せました。

体験展示では、ISITが取り組んでいる拡張現実/仮想現実/人工知能(AR/VR/AI)技術を体験された方々から「面白い」「不思議な体験ができた」といった感想を頂くなど、たいへん好評でした。



※eスポーツ：
エレクトロニック・スポーツの略称

本プログラムは、九州経済産業局の平成29年度中小企業知的財産活動支援事業費補助金(地域中小企業知的財産支援力強化事業)の交付金を活用して、ISIT、福岡県産業・科学技術振興財団〔ふくおかIST〕、北九州産業学術推進機構〔FAIS〕の3機関連携体Joint-IFF(ジョイント・イフ)が事務局を担当して、年間を通じて実施した人材育成事業です。

その概要は本誌第85号(平成29年10月発行)で紹介しています。

また、本プログラムの成果は、事業報告書の他、ブックレット(写真参照)、映像記録、九州経済調査協会の調査月報(平成29年12月号～平成30年3月号にシリーズ掲載)を是非ご覧ください。

本稿では、最終回の報告会の様子をご紹介します。

「根拠を示しながら場人と人との仕組みを組み合わせた優れた提案があった」「与えられた枠組みの中での成果としては十分に評価できる。一方、その枠組みを越え、はみ出していくような展開、自分で枠組みを作り出す気概が必要になる」「行政・民間がなかなか手を出せず放置されていた社会的課題への取り組みは大切だと感じた」…。

これらは、2月22日、リーガロイヤルホテル小倉で開催された「提案力・開発力育成プログラム～デザイン思考で会社を変える!」の成果発表会で、大学、金融機関、企業支援機関から選ばれた9名の審査員が、受講生6チームによる渾身のプレゼンテーションに対して、共感と激励をこめて語り掛けた講評の一部です。

そのまま事業として単立つ提案もあれば、悪戦苦闘の末いくつかの試行錯誤を真摯に報告した発表もありました。

発表の中で採用されなかったアイデアについても、そこには根深い課題と深い洞察があり、もう一度、視点を変えて取り組む価値があるとの審査員の言葉が、特に印象的でした。

「人を中心としたビジネスモデルの構築」という本プログラムの核心部分に触れる指摘であり、発表者ばかりでなく運営事務局までも大いに勇気づけられました。

このあと、本プロジェクトに参画したモノづくり系5社、IT系6社、サービス系5社から参加した総勢31名は、頭の中の引き出しを増やしてそれぞれの会社に戻っていきました。半年の間に育んだチーム毎の仲間意識、別チームで活動した同僚との新たな絆、講師や事務局との繋がりなど、人間関係の財産も大きな収穫となったと思います。皆さんがそれぞれの職場で会社を自分を変えていく力を発揮し続けてくれることを祈っています。



第1回洗浄技術セミナー・出張よろず相談会を開催

平成30年3月9日

ふくおか産学共創コンソーシアム初の主催イベントとして、企業等の研究開発において重要な技術である「洗浄」をテーマとした技術セミナーを開催しました。

第1回洗浄技術セミナー

演 題：「洗浄とは何か？化学の観点から産業洗浄技術を考える」

講 師：石川 誠 特別研究員 (ISIT)

また、本セミナーに続けて、よろず相談「分析NEXT」初となる「出張よろず相談会」を開催しました。当日は、参加企業の皆様から、特に洗浄に関する課題等について相談が寄せられ、ふくおか産学共創コンソーシアム事務局であるISIT(九州先端科学技術研究所)の産学官共創推進室メンバーを中心とする支援スタッフで対応を行いました。

イベント開催後、あらためて詳細な相談に発展し、よろず相談「分析NEXT」の新規相談として継続している案件もあり、現在、個々に対応・支援を続けています。



第1回洗浄技術セミナーの様子



出張よろず相談会

有機EL 参入支援セミナーを開催

平成30年3月14日

ISIT(九州先端科学技術研究所)は、福岡県、福岡市及び福岡県産業・科学技術振興財団とともに、有機EL参入支援セミナーを開催しました。

このセミナーは、県内企業の有機EL産業への参入支援を目的とし「有機ELの将来は？－剛から柔へ－」をテーマに、「フレキシブル有機ELの量産動向」及び「フレキシブル有機ELデバイスの最新技術」の演題で、電子デバイス産業新聞の津村明宏編集長及びNHK放送技術研究所の深川弘彦氏を講師に迎え、ご講演を頂きました。

当日は、県内の企業が多数参加し、熱心に質疑が行われ、講演会後は、講師を交えた名刺交換会で活発な情報交換が行われました。

参加者からは、有機ELの最新の情報を知ることができ、有益であった等の感想が聞かれました。



津村 明宏氏



深川 弘彦氏



講師を交えた名刺交換会

九州大学高等研究院及び京都高度技術研究所(ASTEM)との 研究交流会

平成30年1月

ISIT（九州先端科学技術研究所）は、九州大学高等研究院及び京都高度技術研究所（ASTEM）との研究交流会を実施しています。

①「ASTEM-ISIT研究交流会」を1月15日に開催〔於：京都高度技術研究所〕

両機関の研究者がそれぞれの研究テーマを発表し、質問や意見・提言等を出し合うなど、研究者にとって大きな刺激となる発表の場となりました。

②「九州大学高等研究院・ISIT研究交流会」を1月29日に開催〔於：九州大学椎木講堂〕

両機関が現在進めている研究を広く発信していくとともに、幅広い分野から次世代を担う若手研究者を育成することを目的として、口頭発表6名に加え(写真上)、30名がポスター発表(写真下)を行い、分野を越えた交流が行われるなど盛況のうちに終了しました。

ISITではこのような研究交流の場を通して、研究者間の相互理解や交流を深めることにより、新たなテーマの創出や共同研究の芽を育てています。



第8回ちいむ百の糸セミナーを開催

海底金属資源の成り立ちを科学で解き明かす～海洋調査技術開発の今とこれから～

平成30年3月20日

ISIT（九州先端科学技術研究所）は、社会実装を目指す最先端の技術開発の動向を地域に伝えることを目的に、福岡県産業・科学技術振興財団、九州大学学術研究・産学官連携本部、九大TLO、九州大学学術研究都市推進機構の5機関が連携した「ちいむ百の糸セミナー」を開催しています。



今回は、九大産学官連携イノベーションプラザにおいて、九州大学理学研究院石橋淳一郎准教授を迎えて「海底金属資源の成り立ちを科学で解き明かす～海洋調査技術開発の今とこれから～」と題してセミナーを開催し、「白熱教室」さながらの熱さで18名の聴衆を魅了しました。

福岡経済同友会(首都・本社機能等誘致委員会) 理化学研究所の取組みを紹介

平成30年3月20日

ISIT(九州先端科学技術研究所)では、地域及び九州の産業振興、我が国の競争力の強化に貢献し、アジアにおけるグローバル研究開発拠点を目指す理化学研究所・九州大学・福岡市の3者連携の取組みを支援しています。

その活動の一環として、福岡経済同友会において、ISITからふくおか産学共創コンソーシアムの取組み、また、理化学研究所から同所が推進する科学技術ハブの取組みについて紹介し、産学官連携の事例等について質疑・意見交換をさせていただきました。



ISITからのご報告

■最高顧問に新海 征治 氏が就任

2008年4月、ISIT（九州先端科学技術研究所）の研究所長に就任後、10年という長年にわたりご尽力いただきました。今後ともISITに対してご助言・ご指導頂くため、ISIT最高顧問にご就任いただきました。



■栗原 隆 氏（前ISIT次長）が、地域企業支援の個人事業体を設立

本年3月末にISIT次長を退任されました栗原隆氏が、福岡市で起業（事業体名：シンフォニックアソシエーション）され、新たにビジネスモデル構築や新技術の新市場展開などの支援等をはじめられました。



■本誌「What IS IT?」がリニューアル

名称を広報誌から活動レポートと改め、発行回数を年4回から2回とし、前回より2頁増の8頁で内容濃くお届けすることになりました。

賛助会員《法人・個人》のご紹介

新規賛助会員ご紹介

■株式会社グルーヴノーツ 様（法人会員）

IoT/ビッグデータ/機械学習を誰でも簡単に利用できる「MAGELLAN BLOCKS」のサービス提供を行っています。

■タイキ薬品工業株式会社 様（法人会員）

工業薬品から金属基板加工のエッチング剤や水処理薬剤等の環境関連商品を提供しています。

賛助会員募集

ISITでは、賛助会員の募集を行っています。

会員特典

1

ISITの技術コンサルティング料金を割引

会員特典

2

コミュニティスペースや会議室で
設備・備品が利用可能

会員特典

3

ISITホームページで紹介（リンク等）

会員特典

4

活動報告書、活動レポートの送付等

詳細はこちらまで！ ISIT総務部

TEL:092-852-3450・FAX:092-852-3455

E-mail:isit-soumu@isit.or.jp

ISITでは、定期交流会や各種セミナーの情報などを配信しております。
メールマガジンのお申し込みはホームページからお手続きいただけます。

<http://www.isit.or.jp/about/publication/mailmagazine/>

発行

公益財団法人 九州先端科学技術研究所 ISIT

Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1-22
〈福岡SRPセンタービル7F〉

Fukuoka SRP Center Building 7F
2-1-22, Momochihama, Sawara-ku, Fukuoka City 814-0001

■ TEL 092-852-3450 ■ FAX 092-852-3455

■ URL: <http://www.isit.or.jp>

■ 制作：株式会社西日本高速印刷





公益財団法人

九州先端科学技術研究所(ISIT)

賛助会員のご案内

お問い合わせ、入会手続きは、
ISIT総務部まで
(isit-soumu@isit.or.jp)

● 賛助会員の特典

1. ISITが行う情報技術、ナノテクノロジーに関する技術コンサルティングを割引料金で利用できます。
2. ISITコミュニティスペースや会議室で賛助会員限定の設備・備品が利用できます。
3. ISITホームページで紹介します。(賛助会員ページからのリンク等)
4. ISITが発行する「What IS IT?」や活動報告書等の刊行物の配布が受けられます。

● 賛助会費(年会費) 法人会員: 10 6万円、個人会員: 10 1万円

賛助会員ご加入について

公益財団法人九州先端科学技術研究所（以下「ISIT」という。）の事業目的に賛同していただける方（団体，企業，個人等）に賛助会員としてご加入いただいています。

1 賛助会員の特典

- ① ISITが行う情報技術，ナノテクノロジーに関する技術コンサルティングを割引料金で利用できます。
- ② ISITコミュニティスペースや会議室で賛助会員限定の設備・備品が利用できます。
- ③ ISITホームページで紹介します。（賛助会員ページからのリンク等）
- ④ ISITが発行する「What IS IT?」や活動報告書等の刊行物の配布が受けられます。

2 賛助会費

年会費は，法人会員1口6万円，個人会員1口1万円とし，毎年度1口以上納入していただくことになります。

ただし，加入時期が年度後半の場合は，当該年度の賛助会費は半額となります。

3 賛助会員資格

当該年度とし，以後，退会の申し出がない場合は自動的に継続します。

4 入会の手続き

賛助会員入会申込書(様式第1号)に必要事項をご記入の上，下記の宛先にお申し込みください。（申込書は郵送にてお願いします。）

なお，登録事項に変更が発生した場合は，賛助会員変更届(様式第2号)によりお届けください。

【入会申込先・お問合せ先】

公益財団法人九州先端科学技術研究所 総務部
〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号
福岡SRPセンタービル7階
Tel 092-852-3450 Fax 092-852-3455
E-mail: isit-soumu@isit.or.jp

【賛助会費振込】

賛助会費は，専用の「振込依頼書」にてお振り込みをお願いします。

「振込依頼書」をお持ちでない場合は，郵送しますのでご連絡ください。

(参 考)

研究所のホームページ

<http://www.isit.or.jp/>

賛助会員のページ

<http://www.isit.or.jp/about/supporter/>

様式第1号

賛助会員入会申込書

公益財団法人九州先端科学技術研究所 御中

貴研究所の事業目的に賛同し、賛助会員として入会を申し込みます。

平成 年 月 日

ふりがな			
氏名又は団体名			印
団体の場合 代表者氏名			
住所	〒		
電話番号		FAX番号	
担当部・課名			
担当者名		電話番号	
申込口数	1. 法人 <input type="checkbox"/>		2. 個人 <input type="checkbox"/>
賛助会費振込先	1. 福岡銀行(西新町支店)普通 1791051 2. 西日本シティ銀行(シーサイドももち出張所)普通 0133919		
担当者 メールアドレス	定期交流会等のご案内を差し上げますので必ずご記入ください。		
Web ページ URL	http:// _____ 貴研究所の賛助会員ページに上記ページをリンクすることに 1. 同意します 2. 同意しません		

※お願い 氏名又は団体名は正式名称をご記入下さい。